



つくることの楽しさ伝えたい

宝石せっけん教室 ジュエルソーブ ナナエ 主宰

みなみざわななえ さん

本物の宝石やアイスクャンディーと見まごうような色とりどりの石けんが並び、優しい香りに包まれた心地よい空間。「ジュエルソーブナナエ」は、昨年11月に岩村田から赤坂区に移転した「宝石せっけん」の教室兼アトリエ。主宰・みなみざわななえさんは、透明な石けん(MPソーブ)を着色して輝くような作品を生み出す。

ななえさんは神奈川県出身の2児の母。幼少期から手芸が大好きだった。アパレル業界で10年働いたが、出産を機に子供服作家に転身。ほどなくしてご主人の故郷・小諸に越してきた。

「成長したら好きな場所での好きなことをすればいい。けれど、小さなうちは自然のなかでのびのび過ごしてほしいので、子育てには最高の環境です。」

宝石せっけんとの出会いは2018年、当時小学一年生だった娘さんが夏休みの自由研究で作りたいと言ったのが「宝石せっけん」だった。自己流で作ってみたがうまくいかず、「その時好きだと思ったことを思い切りやりたい」性格のななえさんは、すぐさま本格的に習うことを決意。東京のJDSA(日本)

本デザイン石けん協会)本部までレッスンを受けに行き、3種類のディプロマ(講師技能認定)を取得。長野県初のJDSA認定校を開校した。

「人と話すのが大好き」というななえさん、「作る楽しさを直接伝えたい」「思い出づくりの手助けをしたい」という思いがある。開校翌年にはSNSで作品を見た出版社に依頼され、2冊の本を発行。簡単にキレイに、何より楽しく作ってもらえるよう手間を惜しまず工夫を重ねた。型を使わず丸めて作る、オリジナル技法を考案したのも、子ども

でも大勢でも気軽に楽しく作れるようにするためだ。積極的に参加してきたイベントや、学校・公民館でのワークショップはコロナ禍で減ってしまったが、オンラインレッスンは全国から申し込みがあり、忙しい毎日を通り越している。

(取材・文 村松 マヤ)



イベント出店などの最新情報はInstagram、教室詳細は <https://www.jewelsoap7e.com>、または、☎090-4011-7279で。製作体験したソーブは持ち帰り可能(購入のみは不可)。



アロマオイルをしみこませて楽しむ「アロマストーン」。IACA Art&Craft が特許をとった韓国生きている技術で制作している(購入可能)。



手を洗うのが楽しくなりそう。色も形も様々なので、鉱石好きの男子にも好評。

学研プラス ガールズクラフトシリーズ『きらきら宝石せっけん』は、簡単に作れるキット付き。日本文芸社『ほんものみたいなジュエルソーブ』は、韓国語版も出版された。



ゆらさんの四季の薬膳

春と小さなイライラ

心の底にわだかまっている小さなイライラ。コロナ禍が長引く中で、誰の心にも小さな怒りのようなものがあるのではないのでしょうか。もともと春は陽気が上昇しやすく、血圧があがったり、目が充血したり、イライラしやすくなるとき。五臓では肝臓の働きが活発になることから、感情の起伏が激しくなり、これに長期化している自粛生活が拍車をかけているといえます。

小さなイライラも日々の生活の中で意識的に対処していくと、上手にやり過ごすことができます。肝臓の機能を穏やかにする食物には香りの強いものが多く、オレガノ、シソ、玉ねぎ、ピーマン、三つ葉、きんかん、グレープフルーツ、みかん、柚子の皮、カルダモン、クミンなど。この他にもそば、魚ではカジキマグロがおススメ。お茶はカモミールティー、ジャスミンティーで心を落ち着けましょう。

ワインも効果的です。小さなイライラ、早めの消火を今年の春の合言葉に。

(国際中医薬膳師 小清水由良)

